

帰国後の社会還元について

樋口 創

(JICA 地球ひろば市民参加協力促進課)



平成21年度青年海外協力隊
現職教員特別研修

平成21年4月6日(月)
15:45~16:15

帰国後の社会還元について ～JICA開発教育支援事業の紹介～

独立行政法人国際協力機構(JICA)
地球ひろば 市民参加協力促進課
職員 樋口 創

本日のプレゼンテーションの内容

1. ボランティア経験の社会還元の重要性
2. 開発教育支援事業について
3. 赴任中に取り組んで頂きたいこと
4. 帰国後に取り組んで頂きたいこと

1. ボランティア経験の社会還元

ボランティア経験の日本社会への還元が、今、求められています！

- ① 多文化共生社会への対応
- ② 「生きる力」を日本社会に還元

学校現場への現地経験の還元

2. 開発教育支援事業とは

国際協力を日本の文化に

市民参加協力事業

イベント・
セミナー

ボランティア
事業

草の根
技術協力

開発教育
支援事業

開発教育とは・・・？

- 世界の文化の多様性
- 貧困問題や南北格差の原因
- 開発問題と地球的課題との関連
- 学習者自身の生活とつながり

理解

参加できる能力・態度

開発教育

1960年代、北米・ヨーロッパのNGO活動から誕生

国際理解教育

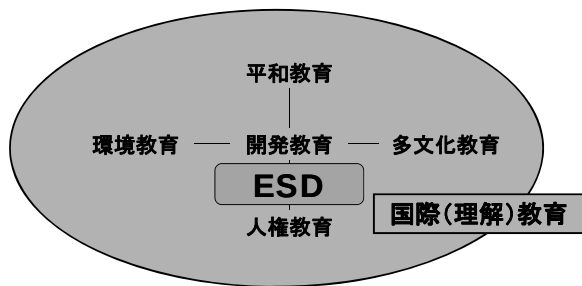
【UNESCO】

・ユネスコ憲章
・1974年「国際理解、
国際協力及び国際平
和のための教育並びに
人権及び基本的自由に
についての教育に関する
勧告」

【日本の国際理解教育】

・1984年
臨時教育審議会答申
1996年
・中央教育審議会答申

開発教育と国際理解教育



総合的な学習の時間と開発教育

□ 総合的な学習の時間

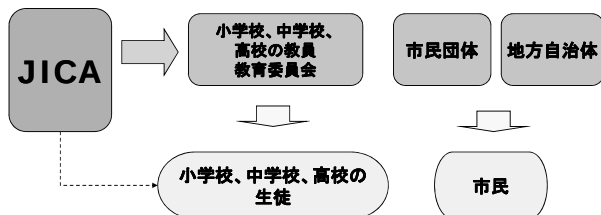
1996年中央教育審議会答申⇒導入
「国際理解、情報、環境、福祉・健康」

学校現場から、NGOや国際交流協会、
JICAなどの外部機関へのニーズが急増

2007年:新学習指導要領では、総合的な学習の時間の削減が決定(中教審)

⇒ 今後は動向に注目する必要

JICAの開発教育支援事業 ～事業の対象者



JICAの開発教育支援事業の基本方針

□「知見の還元」 社会還元

□「考える機会の提供」

□「橋渡し役」

JICAの開発教育支援事業のメニュー ～知見の還元



□ 開発教育のための教材の作成

- ・集まれ！地球の教室
- ・ホームページ:「僕ら地球調査隊」

<http://www.jica.go.jp/kids/pages/index.html>

JICAの開発教育支援事業のメニュー ～考える機会の提供



□ 国際理解教育

- ・小学校から大学まで、生徒を対象に、開発問題等を考える機会を提供。

JICAの開発教育支援事業のメニュー ～橋渡し役

- 開発教育指導者研修
 - ・開発教育の「担い手(=教師、市民など)」育成を目的
 - ・地域で開発教育に携わっている市民団体等と協働で実施

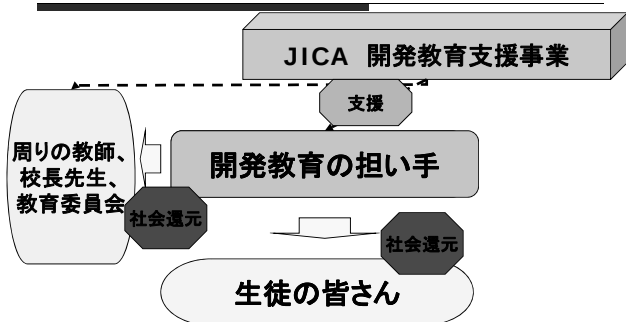


3. 赴任中に取り組んで頂きたいこと

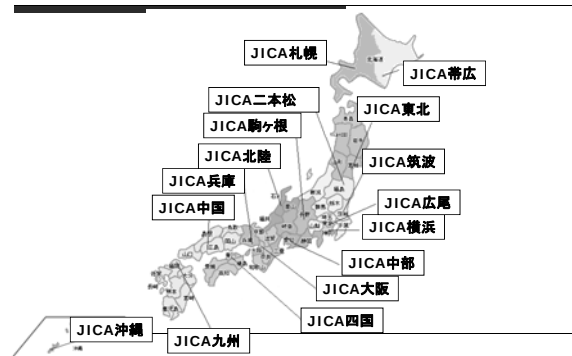
- ① 帰国後、開発教育を実施するための教材を集めてください。
(写真、ビデオ、民族衣装、生活用品・・・etc)
- ② 派遣中も、現地のことを是非日本に紹介してください。

* マルチメディア教材「伝えよう、あなたの想いを ～開発教育のススメ」も是非見てみてください。

4. 帰国後に取り組んで頂きたいこと



帰国後はお近くのJICA国内機関をお訪ね下さい！



ご清聴、ありがとうございました。

ご不明点等ありましたら、
JICA地球ひろば(広尾センター)
市民参加協力促進課(03-3400-7254)まで。